

一般質問発言通告書

発言順位 13番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和5年9月5日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 4番 堀江 和雄

質問事項1	公会計から得られるデータの活用とデジタル予算書の取組みについて
具体的内容	<p>平成26年に設定された統一的な基準による財務書類及び固定資産台帳については、令和3年度末において決算年度の翌年度末までに作成・更新された地方公共団体が9割を超えるなど、全国でも定着が進みました。当市においても財務諸表と関連データの公表もされることとなりました。企業会計である減価償却の考え方も導入され、資産・建物の老朽化、価値の減少などのデータも把握することができました。しかし、財務諸表が翌年度末となるため、次年度予算に反映することができません。一人当たりの資産額、負債額、行政コストなど、これからのデータ活用について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none">1 公会計から得られる財務諸表からのデータ等の活用状況について伺います。2 財務書類・固定資産台帳の活用方法について。有形固定資産減価償却率など更に事業別・施設別データの算出から、公共施設マネジメントに活用ができないか伺います。3 財務会計システムの機能向上について。新たなシステムを導入しこれからの機能拡張も大いに期待をします。仕訳伝票の入力などにより財務会計システムの機能向上に向けて三島市が取り組めることがあるのではないかと考えますが、見解を伺います。4 デジタル予算書の取組みについて。スマート市役所宣言、DXにより自治体予算の見える化である事業予算の推移、執行率、成果などが瞬時にパソコン上で見ることができるデジタル予算書も注目されています。導入先進地である新潟県柏崎市・大阪府豊中市の取組みを参考にできないか伺います。
質問事項2	小さな低速電動車（グリーンスローモビリティ）が公共交通と地域を変える
具体的内容	<p>昨年4月から、大場駅を起点に東大場、錦が丘、パサディナ及び函南エリアを結ぶ自主運行バス「花のまち号」が運行を開始しました。嬉しいことに多くの反響も頂き、利用者増、昨年末には関係の皆様との意見交換会も実施、日中運行のジャンボタクシー運転手に過度の負担とならない範囲での改善要望などで利便性向上を図ることができました。現在は、地域の5年後を議論しています。最寄り駅、バス停、集会所などからいわゆる自宅までのラストワンマイルをどのようにアシストしていく事ができるのか。キーワードは、小型・低速・電動であり、更に副産物として、話しかけやすくなるコミュニティが醸成されます。そして街中では、まちなかりノベーション計画にあるウォークブル（歩きやすい・歩きたくなる）、多額の経費が掛からず、まちなか、郊外団地、観光エリア、坂道の移動などに適していることが求められます。小さな低速電動車（グリーンスローモビリティ）について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none">1 鉄道、バス等これまでの公共交通ネットワークを補完する移動交通が様々議論され、実用化されています。小さな低速電動車（グリーンスローモビリティ）の5つの特徴から我が地域でも自宅までのラストワンマイルの移動を補完する小さな交通になると考えますが、見解を伺います。2 まちなかにもグリーンスローモビリティを導入することにより、小型・低速（ゆっくり）の空間が創出されて、歩きやすい・歩きたくなる「ウォークブル」を実現できる環境が醸成されると考えますが、見解を伺います。